

発達心理学 I (発達心理学)

担当教員 水間 宗幸

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

基本的な教養および対人専門職の基礎的位置づけとして発達心理を位置付け、これを学ぶことにより、自己及び他者をひとつの人格として考えることができる。またそれぞれの発達段階の一般的特性を理解し、望ましい発達およびその支援を考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	発達心理学を学ぶ意義～ガイダンス
2	発達心理学の基礎理解～何を学ぶのか
3	乳幼児期の発達の特徴～人・モノとの出会い
4	愛着形成～家族というのも
5	認知発達～なぜ子どもは遊ぶのか
6	ことばとコミュニケーションの発達
7	自己と情動の発達
8	仲間関係とこころの理解～こころの理論
9	道徳性と向社会的行動の発達
10	児童期の発達の特徴～学校という環境と発達の関係
11	思春期・青年期の発達の特徴とアイデンティティの形成
12	成人期から老年期の発達の特徴
13	発達の多様性～発達障害の理解
14	発達・家族支援とカウンセリング～社会の中の家族と個人の中の家族
15	発達心理学再考～これでいいのだ

【履修上の注意事項】

事前にテキストによる学習を行い、事後学習としてノートを含め知識を深めておくこと。

【評価方法】

期末試験結果に加え、受講態度を加味し最終的な評価とする。

【テキスト】

『新・プライマーズ/保育/心理 発達心理学』 無藤隆・中坪史典・西山修編著 ミネルヴァ書房

【参考文献】

適宜紹介する

教育原理

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1) 教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。
- 2) 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。
- 3) 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育とは何か／講義の目的・概要と進め方についてか
2	教育の目的と本質
3	教育と人間発達（1）発達のメカニズム
4	教育と人間発達（2）レディネスと教育
5	教育と社会／教育の理念についての理解
6	諸外国における教育の歴史と思想（1）古代の教育
7	諸外国における教育の歴史と思想（2）中世・近世の教育
8	諸外国における教育の歴史と思想（3）近代の教育
9	近代教育への批判と新教育運動の思想・実践（1）ヨーロッパ
10	近代教育への批判と新教育運動の思想・実践（2）アメリカ進歩主義教育
11	わが国における教育の歴史と思想（1）戦前
12	わが国における教育 歴史と思想（2）戦後
13	教育における家庭の役割
14	社会のなかの子どもの変化
15	今日の子どものめぐる諸問題（いじめ、不登校などをめぐる状況と学校教育の在り方）

【履修上の注意事項】

授業には参加的態度で臨むこと。
 その他、授業外でも教育にかかわる情報をキャッチする鋭敏なアンテナを持ち合わせて欲しい。
 事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験（70％）、小レポート（30％）を評価の対象とする。

【テキスト】

石村華代・軽部勝一郎編著『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房、2013年。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

教育行政論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 3年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 教育行政の基本概念を理解し、教育行政をめぐる諸問題について自分の考えを持つことができる。
- 2 日本国憲法及び教育基本法から導き出される教育の基本原則、及びその意義を理解する。
- 3 学校教育における具体的な事例について、その多くが教育行政と密接に関連していることを理解する。

【授業の展開計画】

学校教育における様々な場面において、事例や判例を基に、学校教育に関する様々な場面や課題を想定し、その実態と問題点に視点を向けさせる。

次に、その根拠となる関連法規や資料を判断基準として、実際の場面ではどのように判断すべきかについてのディスカッションを中心に展開する。

授業計画

第1回：学校教育制度の目的と構造

第2回：教育行政① 教育委員会の組織・機能，教職員の人事権

第3回：教育行政② 学校選択制の拡大，教育振興基本計画

第4回：学校組織① 校長の職務と権限と職員会議の機能

第5回：学校組織② 校長，副校長，教頭の資格要件とその緩和

第6回：学校組織③ 養護・栄養・図書教諭等の職務

第7回：教職員① 教員の身分と職務・サービス

第8回：教職員② 指導力不足の教員の人事管理と教員の研修体系

第9回：教職員③ 教員免許更新制と教職大学院の役割・機能

第10回：教育課程① 学習指導要領の法的拘束力と基準性

第11回：教育課程② 学習指導要領とその改訂

第12回：教育課程③ 教科書採択制度

第13回：児童・生徒への対応① 登下校時を含む安全の確保と現代的課題

第14回：児童・生徒への対応② 学校事故における法的責任

第15回：児童・生徒への対応① 懲戒の範囲と体罰，出校停止

定期試験 試験期間中に実施

・知識・理解（基本的事項や学習指導の理解），学んだことを学習指導に生かす姿勢

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため，ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので，常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。

追試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回，資料を配布する。参考資料については，授業の中で随時提示する。

教育課程論

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する。
- 2) 教育課程編成の基本原則、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。
- 3) 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育課程とは：教育課程の意義
2	教育の目的と教育課程の編成原理
3	教育課程の歴史的展開と教育方法
4	日本における教育課程の歩み：戦前
5	日本における教育課程の歩み：戦後
6	教育課程の法と行政
7	学習指導要領の特徴と変遷（1）経験主義から系統主義、教育の現代化
8	学習指導要領の特徴と変遷（2）「ゆとり教育」と新学力観、「脱ゆとり教育」
9	教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法
10	児童又は生徒や学校、地域の実態を踏まえた教育課程や指導計画
11	学校教育課程全体のマネジメントおよび学習指導要領に規定する教育課程のマネジメント
12	授業計画（学習指導案）の作成
13	授業計画（学習指導案）の発表と相互検討
14	教育課程の経営と評価
15	今日の教育課題と教育課程：「学力」をどう捉えるか

【履修上の注意事項】

上記の計画は、受講者の数及びニーズに応じて一部変更する場合があります。事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

期末試験70%＋リフレクションペーパー30%を原則とし、総合的に評価する。

【テキスト】

広岡義之編著『はじめての教育課程論』ミネルヴァ書房、2016年

【参考文献】

『学習指導要領』

道徳教育論

担当教員 山本 孝司

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
- 2) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ、情報モラル等）
2	道徳教育の本質
3	学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び内容
4	道徳性 1（道徳教育の原則からみた道徳性）
5	道徳性 2（コールバーグの道徳性発達理論）
6	日本における道徳教育の史的展開
7	学校における道徳教育の現状（新基本法と学習指導要領）
8	「特別の教科 道徳」について
9	道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴
10	道徳科における教材の特徴を踏まえた授業設計
11	道徳授業の指導計画
12	道徳科の学習指導案の作成（模擬授業 1）
13	道徳科の学習指導案の作成（模擬授業 2）
14	道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方
15	道徳教育に関する今後の課題

【履修上の注意事項】

授業内ではディスカッション・ディベート等、話し合い活動を取り入れることが多い。
 参加的態度で臨むこと。
 教育界における「常識」をラディカルな次元に立ち返り疑ってみる鋭敏なセンスを養って欲しい。
 事前に資料を読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験（70%）、小レポート（30%）を評価の対象とする。

【テキスト】

石村秀登・末次弘幸編著『道徳教育の理論と実践』大学教育出版（2018年3月）

【参考文献】

『「道徳」授業に何が出来るか』／宇佐美寛／明治図書

特別活動論

担当教員 山本 孝司

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 特別活動の意義、目標及び内容を理解する。
- 2) 特別活動の指導の在り方を理解する。
- 3) 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する（指導計画作成、評価を含む）。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	学習指導要領における特別活動の目標及び内容
2	教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連
3	学級活動・ホームルーム活動の特質
4	児童会・生徒会活動の特質
5	クラブ活動の特質
6	学校行事の特質
7	教育課程全体における特別活動の指導の在り方
8	特別活動における取組の評価・改善活動
9	合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義と指導の在り方
10	特別活動における家庭・地域住民や関係諸機関との連携の在り方
11	「総合的な学習の時間」の意義と教育課程において果たす役割
12	学習指導要領における「総合的な学習の時間」の目標
13	各教科等と関連させた「総合的な学習の時間」の年間指導計画の作成
14	探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て
15	総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点

【履修上の注意事項】

学級活動、児童会・生徒会活動、学校行事等の特質や内容について実践事例や受講生の経験等も活用しながらより具体的な講義を展開していきたい。
事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

レポート40%、期末試験60%

【テキスト】

広岡義之編著『新しい特別活動－理論と実践』ミネルヴァ書房、2015年

【参考文献】

教育情報科学

担当教員 元田 暁輝

配当年次 4年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

高度情報化社会の進化を背景として、初等・中等教育における教科「情報」の導入とともに、非情報系科目のみならず学校運営においても、ICT(情報通信技術)の活用が国の教育・学校施策として推進されている。本科目では、情報の基本技術、社会の高度情報化に伴う種々の問題について学び、情報化が推進される教育現場で、ICTが創る新しい授業形態と学校運営の積極的担い手になるための基本的考えを身に付けることができる。

【授業の展開計画】

<ガイダンス>

Part I. 情報社会における新しい授業のあり方

1. 教育の現状とICT活用の意義、教師のベーシックスキルとは
2. 主体的・対話的な深い学びをICTを活用して授業に活用する
 - ・生徒にとって理想的な授業とは
 - ・なぜ教育情報科学を学ぶのか
 - ・ICTを活用することでできる授業の可能性を探る
 - ・健康とICTの問題をチームとして考える

Part II. 情報文明の発展とそれを支える技術

1. デジタルデータの特長と仕組み
2. コンピュータの基本構造とデータの取扱い
3. インターネットの仕組みとセキュリティ
4. 情報ネット社会の問題点と対策
5. プログラミングの考え方

Part III. 情報教育の現状と課題

1. 情報モラル（著作権、個人情報保護等）
2. 教育現場の情報管理とセキュリティ・ポリシー
3. AIの進歩が教育現場にもたらす環境の変化と教師の役割

<教育情報科学の復習とまとめ>

【履修上の注意事項】

授業では、教育現場の状況と問題をリアルに伝え、その状況を認識し、教師として成長するには何が必要かを皆さんに提起します。したがって、自身が教師として現場に立つことを想定し、毎回の授業で取り上げられたテーマについて、調べ、或いは自身ならどうするかなど考え、仲間と議論するなどのことを少なくとも30分程度は取って復習として取り組んでください。そのような取り組みは、次回の授業の予習にもなります。それとともに、次回の授業までに出された課題は必ず取り組んでください。

【評価方法】

平常課題（プレゼンテーションを含む）とレポートのウェイトを6：4とし、満点を100として評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

教育方法論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 多様な学習者に配慮して「教授と学習」という視点に立った学習指導の方法と技術を習得することができる。
- 2 学び方や思考の発展性に配慮した学習指導案の作成方法を理解し、作成することができる。
- 3 学習や学校生活における様々な場面に応じた指導方法について理解することができる。
- 4 授業効果を高めるための方法としての教育情報機器の利用について理解し、活用することができる。

【授業の展開計画】

授業の概要

まず、教育における方法論的な立場から、教育方法の歴史や組織面(形態)及び改革等について学ぶとともにその成果の評価について学習する。

次に、学習指導案を作成するために必要な多面的な視点をもとに、学習指導案を作成するための知識と技術を習得する。

さらに、教育効果を高めるために、各種情報機器の必要性を理解するとともに、その有効活用ができる知識と技術を習得する。

授業形態は講義とするが、ペア等によるディスカッションを随所に取り入れ、特に、資料(動画や図表等)から読み取る目を育てることに力を置く。

授業計画

第1回：授業のねらいと展開の方法

第2回：教育方法の歴史

第3回：教育方法の種類と特質

第4回：教育方法の改革と課題① 学力形成の方法論

第5回：教育方法の改革と課題② 学習の形態と、教師と子どもの関係性

第6回：教育方法の改革と課題③ 学習の成果とその評価

第7回：学習指導の実際① 学習指導案作成の手順と目標設定

第8回：学習指導の実際② 指導計画と本時のねらい

第9回：学習指導の実際③ 授業準備と学習活動における指導上の留意点

第10回：学習指導の実際④ 思考の流れを育てるための学習展開の方法

第11回：教育情報機器の活用① 教育情報機器の例とその効果

第12回：教育情報機器の活用② 五感に訴える資料の条件

第13回：教育情報機器の活用③ プレゼンテーションの作成方法

第14回：具体的な場面における指導方法の実際① (生徒指導や生活に関する指導)

第15回：具体的な場面における指導方法の実際② (健康や安全に関する指導)

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%、課題提出20%、期末試験40%で評価する。

追試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回、資料を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。

福祉科教育法 I

担当教員 日比 眞一

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①高校福祉科免許取得に必要な知識や技能を習得する。
- ②福祉科9科目の内容を理解し、授業の実践力を養う。
- ③高等学校学習指導要領を理解し、教師としての実践に反映できるように考察する。
- ④目指す教師の理想像を持ち、説明できる。

【授業の展開計画】

<到達目標>

- ①高校福祉科教員として指導案作成や授業を展開できる。
- ②高校福祉科を卒業した生徒のキャリアパスについて概説できる。
- ③高校福祉科を含めた今日の教育問題の概要を理解し、議論することができる。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	高校福祉科の歴史
3	高校福祉科9科目の理解
4	高等学校学習指導要領と学習指導案
5	教材研究と学習指導案①
6	教材研究と学習指導案②
7	授業の実践力① ～意欲の低い生徒など～
8	授業の実践力② ～反抗的な態度をとる生徒など～
9	学習指導案作成①
10	学習指導案作成②
11	ミニ授業と評価会①
12	ミニ授業と評価会②
13	ミニ授業と評価会③
14	教師の自覚
15	まとめ

【履修上の注意事項】

- ①教師を目指す自覚を持って臨んで頂きたい。
- ②講義とミニ授業に取り組み、アクティブラーニングを実践する。

【評価方法】

- ①授業取り組み、発言、成果物、ミニ授業等 60%
- ②定期試験 40%

【テキスト】

- ①検定教科書『社会福祉基礎』実教出版
- ②検定教科書『介護福祉基礎』実教出版

【参考文献】

- ①保住芳美編『高等学校学習指導要領の展開 福祉科編』（2009）明治図書
- ②大橋謙策・田村真広・辻浩編『福祉科指導法入門』（2006）中央法規出版

福祉科教育法Ⅱ

担当教員 日比 眞一

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

①高等学校専門教科「福祉」の教員免許取得希望者のための必要な知識・授業スキルを修得し、福祉科教員として実際に教壇に立ち指導ができる。②高等学校以外の社会福祉協議会等で地域や小・中・高への「出前福祉教育」ができる教育指導方法を学ぶ。③福祉科教育を通じて、人工知能時代に備えてコミュニケーション能力・対話力を磨く。④福祉科指導方法を理解する。

【授業の展開計画】

<到達目標>①福祉科教員として高校で授業ができる。②社会福祉協議会や福祉施設職員として、小・中・高・地域で福祉教育ができる。③指導案に基づき模擬授業ができる。

週	授 業 の 内 容
1	学習指導案の作成方法
2	学習指導案の作成と評価（子どもの虐待・貧困・認知症・障がい・地域など）
3	教材研究と模擬授業（アクティブラーニング・セブクロス）
4	教材研究と模擬授業（アクティブラーニング・四段階討議法）
5	教材研究と模擬授業（アクティブラーニング・特定要因分析法）
6	教材研究と模擬授業（アクティブラーニング・コラージュ法）
7	模擬授業① 社会福祉の基礎 1
8	模擬授業② 社会福祉の基礎 2
9	模擬授業③ 介護基礎
10	模擬授業④ コミュニケーション技術（SEI）
11	模擬授業⑤ 生活支援
12	模擬授業⑥ 介護過程（アセスメント・ケアプラン）
13	模擬授業⑦ 介護総合演習（DVD）
14	模擬授業⑧ こころとからだ（認知症）
15	模擬授業⑨ 福祉情報活用・まとめ

【履修上の注意事項】

- ①事前に学習指導要領を読み、授業後の振り返り表で検証すること。
- ②模擬授業でアクティブラーニングを実践する。
- ③高校教諭「福祉」の免許取得希望者は、必ず履修すること。

【評価方法】

レポート（学習指導案）80%、模擬授業20%

【テキスト】

- ①文部科学省『高等学校学習指導要領解説（福祉編）』海文堂出版
- ②保住芳美編『高等学校新学習指導要領の展開 福祉科編』明治図書

【参考文献】

- ・厚生労働省編『厚生労働白書』全国官報販売協同組合・厚生統計協会編集『国民の福祉の動向』他

教育と福祉

担当教員 山本 孝司

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義においては教育内容としての「福祉」について学ぶ。
高校福祉の教科を内容的に研究し、理解を深めることを目的とし、「福祉科教育法Ⅰ,Ⅱ」と合わせて教科「福祉」の指導の力量を身に着けることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	「福祉」を教えることの意義（概要）
2	国民的教養としての「福祉」について
3	介護福祉士養成における「福祉」教育
4	「福祉」の内容研究—「社会福祉基礎」(1)
5	「福祉」の内容研究—「社会福祉基礎」(2)
6	「福祉」の内容研究—「介護福祉制度」(1)
7	「福祉」の内容研究—「介護福祉制度」(2)
8	「福祉」の内容研究—「コミュニケーション技術」(1)
9	「福祉」の内容研究—「コミュニケーション技術」(2)
10	「福祉」の内容研究—「介護過程」(1)
11	「福祉」の内容研究—「介護過程」(2)
12	「福祉」の内容研究—「生活支援技術」「こころとからだの理解」(1)
13	「福祉」の内容研究—「生活支援技術」「こころとからだの理解」(2)
14	「福祉」の内容研究—「介護実習」「介護総合演習」
15	「福祉」の内容研究—「福祉情報活用」

【履修上の注意事項】

事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

基本は講義形式であるが、受講者に調査報告を課したうえでディスカッションを行う。
評価の内訳は、調査報告（30%）、ディスカッションへの参加（20%）、ふりかえりレポート（50%）とする。

【テキスト】

講義中に指示する

【参考文献】

講義中に適宜紹介する

生徒指導論

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 生徒指導の意義や原理を理解する。
- 2) すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。
- 3) 児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生徒指導の今日的な意義と課題
2	教育課程における生徒指導の位置付け
3	各教科、道德教育、総合的な学習の時間、特別活動における生徒指導の意義及び重要性
4	集団指導・個別指導の方法原理
5	生徒指導体制と教育相談体制
6	校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組
7	基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方
8	児童生徒の自己の存在感が育まれる場や機会の設定の在り方
9	生徒指導にかかわる法令（校則、懲戒、体罰、停学・退学等）
10	暴力行為、いじめ、不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応
11	生徒理解のための方法と技術
12	生徒指導における学級経営および地域や家庭との連携
13	進路指導の内容と計画
14	キャリア教育と生徒指導・進路指導
15	コミュニケーションと生徒指導—子どもの自己肯定感を高めるために

【履修上の注意事項】

授業内に課される活動には、積極的に参加をすること。
事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験（60％）、小レポート（40％）を評価の対象とする。

【テキスト】

広岡義之編著『教育実践に役立つ生徒指導・進路指導論 - 「生徒指導提要」に触れつつ』あいり出版

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

担当教員 古賀 由紀子、三津家 律子

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教育相談とは、一人一人の子どもの教育上の諸問題について本人または、保護者、教師などにその望ましい在り方について指導助言することを意味しているが、特に学校生活において不適応を訴える児童生徒、保護者に対して主として個別援助するとき、これらの悩みや問題行動に対してどのように理解し、具体的に対応していったらよいか説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育相談の考え方・教育相談の位置づけ、生徒指導と教育相談（古賀）
2	児童生徒理解の基礎Ⅰ（教育相談の内容、発育発達、疾病等の一般的理解）（古賀）
3	児童生徒理解の基礎Ⅱ（個別的理解とその方法）（古賀）
4	カウンセリングの意義（三津家）
5	カウンセリングの理論（三津家）
6	カウンセリングの技術（三津家）
7	問題行動の理解（三津家）
8	学校でできる遊戯療法（三津家）
9	学校でできる認知行動療法（三津家）
10	発達促進的教育相談（三津家）
11	教育相談の事例研究、支援会議（三津家）
12	家族への援助、教師へのコンサルテーション（三津家）
13	教育相談の担い手（学級担任、教育相談担当者、養護教諭、スクールカウンセラー他）（古賀）
14	教育相談の機関と援助事業（古賀）
15	支援的ネットワーク、教育相談の課題（古賀）

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておくこと。
授業の最後に振り返りのための課題を提示するので、それを踏まえて振り返りまとめておく。次の授業の最初に前回のまとめを提出する。

【評価方法】

レポート等20%、期末試験80%により評価する

【テキスト】

【参考文献】

「改訂版心理臨床の基礎」小野けい子編著 放送大学教育振興会、
「学校でフル活用する認知行動療法」 神村栄一著 遠見書房

教職実践演習（高）

担当教員 嶋 政弘、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、山本 孝司、吉岡 久美、水間 宗幸
、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

使命感や責任感に裏打ちされた教員としての確かな実践的指導力を身につける。
具体的には次の四つの事項（①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児・児童・生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項）に関する知識・技術を修得し、それに基づいた実践が行えるようになる。

【授業の展開計画】

- I 教師に関する研究(教育実習自己評価用紙を基に自己省察を行う)
自己省察(教育実習自己評価用紙を基に)
- II 学校教育におけるエコロジカルアプローチ(事例研究や対人援助技術を学び最新の子どもの発達に関する理解を深める)
 - (1)事例研究(保護者地域社会との連携・協働について)
 - (2)学校に関連した対人援助技術を学ぶ(保護者との関係性の構築の仕方等に関するロールプレイングを含む)
 - (3)最近の知見に基づく子どもの発達に関する理解を深める。
- III 授業研究(実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究を行う)
 - (1)実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その1)
 - (2)実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その2)
 - (3)実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その3)
- IV 生徒指導(生徒指導の在り方及び不登校といじめ問題・ロールプレイングを含めた事例研究を行う)
 - (1)生徒指導の在り方について(「生徒指導上の諸問題の現状について」)を基に
 - (2)事例研究(不登校といじめ問題等)
 - (3)事例研究(ロールプレイング含む)
- V 児童・生徒理解(玉名市内のスクールボランティア協力校・学校支援・市内協力高校でのフィールド学習を実施する)
 - (1)スクールボランティアを活用したフィールド学習
 - (2)スクールボランティアを活用したフィールド学習
 - (3)スクールボランティアを活用したフィールド学習
 - (4)フィールド学習の振り返りと評価
- VI 総括

【履修上の注意事項】

事前事後学習については担当者の指示に従うこと。

【評価方法】

①授業態度(30%)、②ポートフォリオを通しての評価(50%)、外部講師による評価(20%)

【テキスト】**【参考文献】**

教職実践演習（養護教諭）

担当教員 嶋 政弘、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、山本 孝司、吉岡 久美、水間 宗幸
、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

使命感や責任感に裏打ちされた教員としての確かな実践的指導力が身についているかどうかの確認を行い、①自らの養護教諭としての実践実習を評価しまとめることができる。
②自らの能力・適性（資質）について、自ら描く養護教諭像と照らし合わせて研鑽すべき課題を述べるができる。

【授業の展開計画】

養護実習の学びを振り返り学校運営についての理解を確認するとともに、学校フィールドで再度児童生徒の理解を深める。学校保健を構成する保健教育・保健管理について、集団指導としての模擬授業、個別指導としての場面指導等の演習を通して実践的指導力を確認する。また課題解決のために組織活動をどのように行っていったらよいかを考える。具体的には下記授業計画のとおり。

I 「教師」に関する研究

自己省察（養護実習自己評価紙を基に）（実習担当者）

II 学校教育におけるエコロジカルアプローチ

(1) 事例研究（保護者・地域社会との連携・協働について）

(2) 学校に関連した対人援助技術を学ぶ（保護者との関係性の構築の仕方等に関するロールプレイングを含む）

(3) 最近の知見に基づく子どもの発達に関する理解を深める。LD、ADHDをはじめとする特別支援教育に

関する実践の基盤

III 授業研究

模擬授業または現場での授業実施と現職教諭を交えての授業研究会(その1)～(その3)

IV 健康問題への解決支援

個別指導の場面指導(疾病の場面指導)

個別指導の場面指導(生徒指導の場面指導：性の問題)

個別指導の場面指導(健康相談)

V 児童生徒理解

(1) スクールボランティアを活用したフィールド学習(1)～(3)

(4) フィールド学習の振り返りと評価

まとめ・評価

【履修上の注意事項】

これまでの教職に関する学習の総まとめの意味があるので、毎回関連する既習科目を復習し演習に臨むこと。授業後は、行った演習を振り返り記録しポートフォリオを作成すること。

【評価方法】

講義についてのレポート、演習後の記録、グループワークでの活動、振り返りでの討論等を総合して評価する。

【テキスト】

新しく購入するものは特になし。これまで使った教科書や資料を利用する。

【参考文献】

教育実習（事前事後指導を含む）

担当教員 嶋 政弘、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、山本 孝司、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考

【授業のねらい】

本学における教職課程で学んだ理論をもとに、学校現場における教育の実践的経験を通して、高校教諭に必要な資質や専門性、実践的指導力をもつことができる。

【授業の展開計画】

1. 事前指導（3年次～4年次実習前）

教育実習の意義・心得、実習の内容や過程の理解、教育現場の事前理解、指導案の作成、実習に必要な知識・技術・技能の獲得、及び実習校の確定とその手続き、実習校との打ち合わせにかかわる実際的な指導

2. 教育実習（4年次、2週間）

実習校の指導のもとで実習を行う

3. 事後指導（4年次、実習後）

実習に関する反省と指導一体験内容の相互共有により実習経験の充実・深化をはかる。また終了レポートの作成、自己評価、体験発表、討論会等を行う。

*なお、事前事後指導については、別途指導計画表を配布する。とくに3年次は専門の実習の関係で、事前指導の日程は、変則的に組まれるので注意すること。初回のガイダンスで詳細に説明する。

【履修上の注意事項】

高校教諭1種免許状の取得希望者のみ。履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるので、よく確認すること。

事前事後学習については担当者の指示に従うこと。

【評価方法】

実習校による評価（60%）、実習録・実習終了レポートによる評価（10%）、事前事後指導における平常の評価（授業態度等）（10%）、事前事後指導におけるレポート等による評価（20%）。

なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められないので厳重に慎むこと。

【テキスト】

特に使用しない。資料を配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

養護実習（事前事後指導を含む）

担当教員 嶋 政弘、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、山本 孝司、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 5

準備事項

備考

【授業のねらい】

①保健室の在り方および養護教諭の果たすべき役割と「養護」の対象である児童生徒の心身、生活の状況、健康問題について実習校の実態に基づいて述べるができる。②保健室に来室する児童生徒に対する中で、健康問題の発見・把握、健康問題の解決、予防のための指導などを適切に行うことができる。③自らが養護教諭になった時の姿（養護教諭増）を描くことができる。

【授業の展開計画】

1. 15日間の実習を行うものとする
2. 実習の全期間を通じて学校教育の目的と、それを実現するための教育計画、教育課程、その他の日常教育活動及び、学校運営機構とその機能について理解を深めるとともに、学校教育のあらゆる場における養護教諭の活動について必要な事項を習得する。
3. 実習校における実習は、主に「講義」「観察」「参加」「実習」という方法で行われる。

【履修上の注意事項】

- ・実習に当たっては1単位の事前事後指導を受けること
- ・履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるのでよく確認をすること
- ・実習校の計画に基づき実習を行なうこと
- ・実習の事前学習を行うこと（学校組織、子どもの発育・発達、養護活動など）また、実習後には振り返りレポートを書くこと。

【評価方法】

実習校における評価（70%）、実習録・実習終了レポートによる評価（10%）、事前事後指導における平常の評価（出席、授業参加等）、事前事後指導におけるレポートによる評価（20%）
なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められないので厳重に慎むこと。

【テキスト】

養護実習の手引き及び配布資料

【参考文献】

適宜紹介する

教職論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 1年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 教員の身分と役割，義務と裁量権について理解する。
- 2 最近の，教員を取り巻く状況や課題について理解する。
- 3 教員に関わる教育制度，学校の組織構造，学級経営の現代的問題理解を通して，求められる新しい教師像と専門性について考察することができる。

【授業の展開計画】

授業の概要

授業においては，各回のテーマに関連のあるニュース等を資料にするなど，具体的な事象を基に考える場面づくりを設定する。

また，ペアによるディスカッションを随所に仕組んだ講義を中心に進め，提示または配布した資料を基に自分の考えを導き出すような展開にする。

授業計画

- 第1回：教職とは何か 教師の役割と使命感
- 第2回：教職の意義と教員の立場
- 第3回：教員の服務義務（法的義務と現状）
- 第4回：教育をめぐる現状と求められるもの
- 第5回：社会と教員に求められる資質能力
- 第6回：校務分掌と教員の多様な仕事
- 第7回：教師間の仕事量の均衡と公務員制度
- 第8回：一人一人の児童・生徒を守る教師
- 第9回：児童・生徒のための学校に
- 第10回：学校・家庭・地域の役割と連携
- 第11回：教員の資質の向上と研修制度
- 第12回：教員の専門性の向上 免許更新制と教職大学院
- 第13回：教員の不祥事とその背景にあるもの
- 第14回：任命権者と教員採用の在り方
- 第15回：教職への道

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため，ペアを作って着席する。
- 2 すべてペアに発言の機会があるので，常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。
追試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回，資料を配布する。参考資料については，授業の中で随時提示する。

生徒指導・進路指導論

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 生徒指導の意義や原理を理解する。2) すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。3) 児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校外の連携も含めた対応の在り方を理解する。4) 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。5) 全ての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。6) 児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育課程における生徒指導の位置付け
2	各教科、道德教育、総合的な学習の時間、特別活動における生徒指導の意義及び重要性
3	集団指導・個別指導の方法原理
4	生徒指導体制と教育相談体制
5	校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組
6	基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方
7	生徒の自己の存在感が育まれる場や機会の設定の在り方
8	生徒指導にかかわる法令（校則、懲戒、体罰、停学・退学等）
9	暴力行為、いじめ、不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応
10	生徒指導における学校と家庭、地域との連携の在り方（専門機関との連携を含む）
11	教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け
12	学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方
13	キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義
14	生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義の理解
15	キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法

【履修上の注意事項】

授業へは参加的態度で臨むこと。
事前にテキストを読み、事後はテキスト、配布資料を読み返しておくこと。

【評価方法】

課題レポート（40%）＋学期末試験（60%）

【テキスト】

広岡義之編著『教育実践に役立つ生徒指導・進路指導論 - 「生徒指導提要」に触れつつ』あいり出版

【参考文献】

授業内で適宜紹介する。